

週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月9日(木)

《実践はできなくても、このように生きたい ルカ 6章 27節から 38節 》

私はあまり「数字を覚えてください。」とは言いません。私も数字は苦手ですから。しかし、今日は皆様に覚えていただきたい数字があります。それは、今日読まれた福音の箇所(ルカ 6・27 38)です。もし皆様が、信者でない人から「イエス様はどのような方でしょうか？」と聞かれたら、この箇所を教えてあげてください。さあ一緒に言ってみましょう。「ルカ、6章、27節から 38節。」これは、皆様がこの世を去られる時まで、覚えておいてください。なぜならば、イエス様が一番ご自分のみ心を表された箇所だと私には思えるからです。

この福音で私達は、「このようにしなさい。」というイエス様の言葉を12個くらい読みましたね。私たちはこの福音をよく聞きます。だから慣れてしまって、集中しなければ感覚的に心に近づいて来ないかもしれません。しかし想像してみてください。初めてイエスという人物に会いに来た、と思ってください。周りにはたくさんの知らない人がいます。そこへ、どのような人なのか気になっていたイエスという人物が現れます。そして大きな声で、誰が見てもカリスマ性を持つ雰囲気、一つ一つこのように話をしたとしましょう。そのような状況で初めてこの話を耳にしたら、どのくらいショックを受けるでしょうか。

これは簡単に実践できる言葉ではありません。2000年前に、イエス様がこの世で初めてこの言葉を口になさった時、それを聞いた人々はどのような反応をしたのでしょうか。少なくとも二つのグループに分かれたと思います。一つは、感動したグループです。「ああ、これは今まで聞いたこともない本当に力のある言葉だ。」と思い、落ちつかない心の働きを感じたことでしょう。もう一つは、「とんでもないことを言って、学識のない者達を扇動している。」と思ったグループです。からかった人もいたかもしれません。全体の半分が10分の1に分りませんが、このように思った人もきっといたことでしょう。

皆様は、どうでしたか。初めてこの箇所を目にした時に、どういう気持ちになりましたか。特別な感情はなく、「こんな言葉もあるのか。」くらいだったのでしょうか。おそらく、皆様も感動されたのだと思います。それと共に「こういうことが実際にできるのか。」という疑いも持たれたと思います。そうではありませんか。

さあ、皆様、今日の福音の中に12個くらいのイエス様の掟があります。その中に、皆様が実践している項目はいくつありますか。正直になりましょう。きっと一つもないのでしょうか。赦せる人だけを赦しているのでしょうか。返してもらえない人に貸すのでしょうか。もし左の頬を打たれたら、皆様はどうしますか。信仰もイエス様も全然関係なく、仕返ししたい気持ちでいっぱいになるのでしょうか。悪口を言われたら、我慢できないのでしょうか。それでも私たちはこのみ言葉を知っていて、初めて聞い

た時には心を打たれました。感動しました。けれども、その通りには出来なかったのです。

現実的に考えてみましょう。この言葉に感動したのなら、少なくともその人は可能性を持っています。しかし、この言葉を聞いても何の心の働きもないのなら、その人は傷だらけです。自分以外は誰も信頼できないくらい傷だらけです。人につけられた傷によって、自分を守らなければならないといつも思っています。

私たちは、感動はします。しかし、実践ができないのです。それでも、感動だけでもしましょう。死ぬときまで実践はできないかもしれないけれど、一つでも、真似だけでもしようと努力する心があれば、何千倍もの報いが待つと私は信じます。

“赦しの秘跡を受ける内容がない”という人が結構いますね。これは、実際には毎日24時間赦しの秘跡を求めても赦されないくらいの痛みです。しかしほとんどの人は“神様がおっしゃることは全て行っているから、赦しの秘跡を受ける内容がない”と思っているのでしょうか。だから私は、「祈ってください。」「祈ってください。」と何度も言っているのです。祈れば自分が見えます。祈れば何が正しいかはっきり見えます。祈らずに、自分の頭を信頼してあれこれしてしまうから、いつも裁こうとする立場になってしまうのです。

皆様、“死ぬまでに、今日の福音のうちのいくつくらいが実践出来るか”よく考えてください。そして、もし実践が出来たとしても、たぶん一時的なのでしょう。最後まで従うことはできないのでしょうか。しかし、イエス様の秤は今日の福音の内容です。この内容を秤として私たちは量られるのです。ですからこの言葉は、私たちにとって負担となる言葉です。重荷になる言葉です。それでも、これは私たちの力では変えられません。

皆様、よく考えてみましょう。もし実践出来なくても、この言葉に感動し、「このような生き方をしたい」と思うだけでも、私たちは救われると思います。そして1万分の1だけでも実践が出来れば、私たちの周りにはみんな友達になれると思います。このような気持ちで行きましょう。そして先ほど申し上げたように、誰かから「イエス様はどんな方でしょうか。」と聞かれたら、「ルカ6章、27節から38節を読んでください。」と答えてください。

「私がそのような生き方をする」ということではなくて、「私が信じているイエス様がそのようにおっしゃった」ということをはっきり話してください。そうでなければ、ご自分を見て相手の人が傷を受けるかもしれません。

ありがとうございました。